

〈解答〉

- ① 1 ウ
2 イ
3 連体詞(漢字のみ)
4 ③ 高橋 ④ 山本(両解・漢字のみ)
5 [例] 自分たちでつくった、生活の知恵や教訓などを表す言葉。(26字)

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 ウ「ある」は直後の「人」に続く形なので連体形、それ以外は連用形である。動詞の活用形の見分け方としては、「ない・う・よう」に続くのが未然形、「ます・た(だ)・て(で)」に続くのが連用形、文が終わる言いきりの形が終止形、名詞や「とき、こと、もの」に続くのが連体形、「ば」に続くのが假定形である。なお、命令形は意味で判断する。
- 2 5～6行目『困難に出会ったときの指針になるようなことわざ』なので、「つらくても長い間辛抱すればいいことがある」ことを意味するイ「石の上にも三年」が当てはまる。ア「のれんに腕押し」は、「いくら力を入れても手ごたえのない様子」、ウ「かっぱの川流れ」は、「どんな名人であっても失敗することがある」、エ「馬の耳に念仏」は「いくら言っても効果がなないこと」、オ「帯に短し襷に長し」は「中途半端で役に立たないこと」を表すことわざである。
- 3 傍線部②「その」は自立語で活用がなく、直後の「宿題」を修飾しているので連体詞である。連体詞は自立語で活用がなく、連体修飾語だけになる単語である。
- 4 佐藤さんの定義では、ことわざは28～30行目『古くから言い伝えられてきた短い言葉で、生活の知恵や教訓などを表すもの』なので、佐藤さんは30～31行目「古くからある言葉だけを載せるべき」だとして17～18行目「自分たちでことわざをつくり、それを載せる」という山本さんの意見に反対している。そして、消去法で残った高橋さんの意見には賛成していることになる。
- 5 山本さんは、34～36行目『生活の知恵や教訓などを表すもの』であれば、古くからある言葉でなくともことわざと呼んでいい」、36～37行目「自分たちでつくったもの」もことわざに含めていいと考えているので、これを字数に合わせてまとめる。